

児童福祉司（応用）Ⅰ（第1回）

令和6年度 児童相談所関連研修

日程 7月22日（月）、26日（金）

対象 ・子ども家庭福祉・母子保健等に携わる職員
・虐待対応の実務経験があり基本的な用語、法制度等をおおむね理解できている職員 【定員：50名】

※本研修は、昨年度まで「児童福祉司（3～4年目）Ⅰ」として実施していましたが、経験年数によらず中堅職員を中心に受講していただくために名称変更しました。

ねらい 児童福祉司として求められる専門的な知識・スキルを身につけ、複雑・困難な事例においても的確な調査・アセスメントを通じた相談援助、他職種・他機関との連携に基づく調整、支援対応等ができる実践的能力の向上を図る。

場所 特別区職員研修所（千代田区九段北1-1-4 東京区政会館別館）

カリキュラム

日程	教科目・講師名（敬称略）
7月22日（月）	9:00~12:00 家族システム論に基づく保護者との関わり方（講義） 関係性が築けていない保護者との関わりをより良くするために役立つ家族システムに関する理論や基礎知識について、現場の職員とのディスカッションを交えながら学びます。 関内カウンセリングオフィス 代表 田中 究 荒川区子ども家庭総合センター 児童福祉係 職員
	<講師プロフィール> 公認心理師、臨床心理士。システムズアプローチ、家族療法、ナラティブ・セラピー、ブリーフセラピーに依拠した研究と実践に従事。跡見学園女子大学、大妻女子大学、東京大学、東北福祉大学非常勤講師。日本家族療法学会認定スーパーヴァイザー、同認定ファミリー・セラピスト。著書として、「心理支援のための臨床コラボレーション入門—システムズアプローチ、ナラティブ・セラピー、ブリーフセラピーの基礎」（遠見書房）、「みんなのシステム論—対人援助のためのコラボレーション入門」（共編著、日本評論社）などがある。
	13:00~17:00 子ども、家族との面接（演習） 児童虐待対応での面接場面を題材に俳優とのロールプレイを行います。講師からの助言を受けながら実践的な演習に取り組みます。 関内カウンセリングオフィス 代表 田中 究 荒川区子ども家庭総合センター 児童福祉係 職員 俳優 2名

（2日目のカリキュラムは裏面に記載）

日程	教科目・講師名（敬称略）
7 月 26 日 (金)	<p>9：00～12：00</p> <p>認知行動理論に基づく対人援助技術について（講義、演習）</p> <p>認知行動療法では、相手との関係を築きながら、相手の考え方（認知）と行動を手がかりに、相手と協働で問題解決に向けていきます。</p> <p>認知行動療法の考え方や技法を使いながら、特に保護者支援や子どもの衝動性への対応などに向け、より良い支援を行うためのスキルを学びます。</p> <p style="text-align: right;">天本病院 医師 坂戸 美和子</p> <p><講師プロフィール></p> <p>日本精神神経学会認定精神科専門医、日本精神神経学会認定精神科専門医制度指導医、精神保健指定医、公認心理師。平成19年から新潟県中央福祉相談センター（中央児童相談所、女性福祉相談所、身体障害者更生相談所、知的障害者更生相談所）で勤務した後、国立病院機構新潟病院 心療科医長を経て、現職に至る。「エビデンスに基づく子ども虐待の発生予防と防止介入」（明石書店）、「子どもの怒りに対する認知行動療法ワークブック」（金剛出版）の訳者を務める。</p>
	<p>13：00～17：00</p> <p>ケースフォーミュレーション・ワークショップ（講義、演習）</p> <p>介入は、ケースを適切に見立てることから始まります。見立てをもとに、どのような介入を行うことが、ケースの解決や前進につながるのか、そのヒントとなるのが心理療法の手法の実施・もしくは援用です。ケースの見立ては心理学派間・支援者間で異なり、それらは可視化されることで学派や立場が違っていても共有可能なものとなっていきます。当日は参考図書「ケースフォーミュレーションー6つの心理学派（認知行動療法・精神分析・家族療法・ナラティブセラピー・社会的不平等の影響・パーソナル&リレーショナルコンストラクト）による事例の見立てと介入」（未刊/仮題）をもとに、前半は各学派を概説し、後半は視点を変えながら架空事例のフォーミュレーションを行い、最適なケース介入を探索・検討していきます。</p> <p style="text-align: right;">天本病院 医師 坂戸 美和子</p>

※第2回は、同教科目で1月実施（11月募集開始）を予定しています。